

横須賀市議会議員

長谷川 昇 市政報告



2023年4月～横須賀市議会議員4期目当選
所属:環境教育常任委員会・三浦半島地域連合議員団
会議事務局長 所属会派:よこすか未来会議
事務所:〒240-0101 横須賀市長坂3-3-1
E-Mail:hasedon2@gmail.com
連絡先:080-4383-1633
※新公式HP長谷川昇
<http://hasedon.info/>

12月議会報告

12月議会は、11月29日から12月14日の会期16日間で行われました。11月30日、長谷川昇は中学校の運動部の部活動の土日の地域移行についてとユニバーサルツーリズムの推進についての2点について質問しました。

1 「部活の地域移行について」

これまで中学生にとっての部活動は、スポーツ文化の振興を担うと共に、生徒の自主性や多様な学びの場として教育的意味を果たしてきました。しかし部活動を教育活動の一環として積極的に取り組む先生がいる一方で、顧問の4割が競技等の経験を持たない先生によって担われている実態も生じていること、さらに少子化の進行に伴う生徒数の減少によって、一つの部活動の人数の減少、部活設置数の減少など、持続可能な部活動を維持することが困難な状況も生じています。

少子化による生徒の減少・部活の維持が困難! 教職員の多忙化・働き方改革!

▼もともと部活動の法的な位置付けも曖昧であり、この間長く教職員の多忙化が指摘され、超過勤務の実態が改善されない中、部活動にかかる教職員への負担も指摘され続けてきました。▼2020年9月1日、文部科学省から発出された学校の働きかた改革を踏まえた部活動改革の通知では「休日の部活動の段階的な地域移行」が示されてきたところです。さらに、2022年12月、スポーツ庁は「中学生の土日の部活動を段階的に地域へ移行すること」とし、部



活動改革として、2003年度～2005年度を「改革推進期間」と設定し、全国の自治体で取り組みを進めるよう道筋を示しました。▼また、今年10月25日、県は「公立中学校における部活動の地域移行に係る神奈川県の方針」をまとめました。方針では、「部活動の地域連携・地域移行については、一律に定めず、地域の実情に応じて、各自治体で工夫しながら、段階的に且つ柔軟に取り組むことを基本とする」としています。

▼本市はどうするのか、目に見えた進捗がない中で、今後の取り組みについて質疑しました。

☆質疑

Q 現状の「部活のあり方検討委員会」は中体連と教職員による組織。地域の受け皿となる様々なメンバーで課題を協議する必要がある。新たな協議会を作る必要があるかどうか？

A教育長・市長 教育関係者だけでなく地域の指導者や市スポーツ協会、有識者などを加えた「新たな協議会」を設置に向けて協議していく。

Q主体である子どもの意見を聞きながら進めていく必要があるかどうか？

A教育長 新たな提案できる形ができた段階で子どもたちの声を聞くことは重要なことと考えている。

Q横須賀には2つのプロチームや多くのスポーツ少年団や陸上のリトルスクールや

格技の道場などがある。横須賀ならではの素晴らしい取り組みができるのではないかと

A市長 本市は総合型スポーツクラブやベ이스ターズ、マリノスをはじめとするプロスポーツとの連携、ウィンドサーフィン、アーバンスポーツなどの大会の誘致などや音楽なども積極的に活用してきた。本市ならではの特徴を学校部活動の地域移行と融合させることは有効。中学生にとってより良い環境になるように教育委員会とともに検討していきます。

◎課題は山積していますが、子どもたちに齎せがいかないために、子どもたちにも、地域にも、行政にもWIN・WINの関係ができるような横須賀モデルを構築する必要があります。

2 「ユニバーサルツーリズムの推進について」

「ユニバーサルツーリズム」とは、年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できることを目指そうとするものです。本市としてこれを本気で進めていく価値があります。まず、



ユニバーサルツーリズムの取り組みに対する補助制度を進めたらどうかという点です。

☆質疑

Q宿泊施設の「バリアフリー改修」や、飲食店等での「外国語表記」、「点字や音声ガイドの拡充」など、民間が取り組むことに対し、補助を行う制度を検討してはいかがでしょうか。

A市長 観光施策を推進する上で全ての人が気兼ねなく楽しめる環境作りは大切。現在本市は希望する飲食店を中心に文化宗教に応じたメニュー開発や外国語表記などインバウンドの受け入れ整備を進めている。補助制度については、民と官が同じ目標に向かって進めるための一つの方法ではあるが、相当な費用がかかる為、まずは民間による国の補助の可能性について情報収集と紹介することから進めていきたい。

Q車いすマラソン開催にあわせ、バイアフリーマップをGoogleマップなど一般に普及したアプリと連携した観光ルートガイドを作成し、ユニバーサルツーリズムプランの試行実施を検討してはいかがでしょうか。



A市長 既に、ANAや京浜急行などと連携し、ユニバーサルマースの実証実験を進めている。その中で、今年度からは本市の観光情報ページの施設情報に最寄の駅から主要施設の経路を設定し、ホームページに42のルートを設定しているが、施設間のルートも作成していきたい。車いすマラソンは、追浜地区での移動情報・観光情報も加味しながら取り組みを進めていきたい。

◎市はユニバーサルツーリズムについては、前向きに動いてくれています。今後さらに、具体的に進めていく必要があります。